上海通信
上海日本人学校
浦東（プードン）校

上越市立城北中学校生徒向け通信
松井的上海

第17号
令和3年11月8日
発行者　松井　明

お世話になっている中国の人々③

許建東（ｼｭ ｼﾞｪﾝﾄﾞﾝ）先生（左）と
私の息子（中央）と私（右）

許建東（许建东:シュ ジェンドン）先生です。私の息子が通っている将棋教室の先生です。許先生は，1963年生まれで，上海財経大学金融科を卒業し，中国工商銀行に勤めました。仕事も順調で，課長まで昇進したころ，外国の資本主義を見てみたいという気持ちが強くなり，周囲の反対を押し切って会社を辞めて日本へ渡ったそうです。日本での生活の中で将棋と出会い，以後，将棋を本格的に学び，アマチュア五段の資格を取るまでになりました。

中国の象棋（シャンチー）

中国にも象棋（シャンチー）という，将棋に似たゲームがあります。しかし，象棋の駒は前にしか進めず，いわば攻撃の発想のみです。しかし，将棋の駒は後ろに下がれるので，攻めと同時に守りが求められます。また象棋では相手の駒をやっつける時に「殺す」と表現して，倒した相手の駒は盤上から消えます。これに対して，将棋では「取る」と言って，相手の駒を捕虜として捕らえ，自分の味方につけ，自由に使うことができます。相手を殺してしまうのではなく，生かすことで，最終的には相手をすべて味方につけるという，相手への思いやりにつながるのです。また将棋は，礼に始まり礼に終わる，勝ってもおごらず，負けたら「参りました」と素直に相手の力を認めるなど，対戦相手を尊敬する気持ちや対局中の姿勢など，礼儀作法を大切にしています。特に子どもにとっては，将棋をやることで頭をよく使い，考えるようになるので論理的思考が身につき，学校では数学の成績がよくなるそうです。

上海へ戻った許先生は，この素晴らしい将棋を中国で広めて，子どもたちの教育に役立てたいと，上海市内の小中高校を回り，普及活動を行いました。最初は，なかなか理解されず，学校教育に取り入れてもらえませんでしたが，ようやく取り入れてくれた最初の学校での教育効果が実証されると，瞬く間に将棋を授業や課外活動で取り入れる学校が増えたそうです。ちなみに，中国での将棋は、象棋や囲碁と並んで、頭脳スポーツという体育のひとつに数えられています。ですから，許先生の将棋教室も上海市体育協会に所属しています。

将棋教室が大切にしている人間教育
「礼・智・雅・悟」の標語

現在，上海市での将棋愛好者は 150 万人以上に広まり，許先生はこの功績が認められ，2018 年に日本将棋連盟から，大山康晴賞（将棋の普及活動や文化振興に活躍したアマチュアに与えられる賞）を受賞されました。現在でも，上海のみならず中国全体に精力的に将棋の普及に努めていらっしゃいます。

今まで私は将棋には全く縁がありませんでした。上海に来て息子が将棋を習いたいと言ったことで，偶然，許先生に出会うことができました。許先生のように中国人でありながら日本文化の素晴らしさを中国で広めている方がいることを知り，日本人として嬉しい反面，将棋に日本人の考え方や日本文化が凝縮されていることを，私が全く理解していないことに気付かされました。日本も中国も文化や国民性に素晴らしいところがあり，お互いに見習う面があります。まずは人と人が交流をすること，そこからお互いを理解することで，より前向きで豊かな未来が開けると思います。